

■次世代楽譜出版の可能性 ～楽譜ビジネスの新たな成長に向けて！

一般社団法人 日本楽譜出版協会
会長 佐々木隆一

今年には日本楽譜出版協会設立30周年の節目の年となります。私が楽譜出版の世界に関わるようになったのは1973年ヤマハ音楽振興会出版課からで、すでに43年前になります。腕ササで自ら楽譜出版社を設立してからも38年目になります。この間、楽譜出版ビジネスを取り巻く環境は大きく変貌してきました。インターネットが商用化され、その進化がコンテンツ・サービスを生み出し音楽産業分野に革新的な変貌を遂げております。音楽再生ではデジタル・オーディオ・デバイスが普及しCDからのリッピングや音楽配信市場拡大により、音楽の楽しみ方や音楽の流通が全く変わってきたわけです。

一方で出版においても電子出版分野の進化で書籍や雑誌、コミックなどがネット配信で流通するようになり約1000億円規模の市場規模に成長してきました。この様な劇的な事業環境の変化でリアルビジネス(レコード店や書店など)の店舗数は急激に減少しております。そのことにより従来のCD市場や出版市場の縮小は当然我々の楽譜出版にも直接間接に影響があり事業環境が益々厳しくなっております。

しかし、インターネット時代の進化は我々楽譜出版にも大きな福音をもたらしております。すべてのユーザーが情報端末を所有する時代になったことにより、直接ユーザーに出版情報を伝え、また予約システムや販売方法(リアル店舗かデジタル店舗)や販売手段(通販か配信)などリアル・ビジネスとネット・ビジネスを融合的に経営戦略としてシームレスに活用できることになり都会でも過疎の田舎でも、そのような環境に関係なく楽譜を必要とする顧客に直接、新譜情報や商品を提供できる素晴らしい時代になりました。

出版社は顧客の要求に応えリアル店舗、配信によるデジタル楽譜、E-コマース通販などあらゆる選択で事業領域を拡大できます。その結果少ない投資でリスクを最小にしてより豊かな作品を創造できることができます。コミュニケーションツールとしてface bookやTwitterなどで情報を拡散する手段も普及していますので従来一番コストがかかるマーケティングや顧客囲い込み戦略が大きく進化しており次世代楽譜出版事業は新たな成長の可能が出てきました。

次世代楽譜出版ビジネス・プラットフォームのご紹介

1) プリント楽譜

ヤマハミュージックメディア

PCやスマートフォンで顧客がほしい楽譜を24時間365日いつでも楽譜を購入できます。自宅プリンターだけでなく49,300店のコンビニのコピー機でも入手できる画期的な楽譜プラットフォームです。

契約版元には売上をレベニューシェアで還元し、権利者処理はYMMが代行します。

○問い合わせ YMMコンテンツ配信部 楽譜配信グループ
03-6894-0264

2) インターネット楽譜配信サイト

アットエリーゼ(ジャパン・ミュージックワークス)

すでに楽譜出版協会の会員になっているので会員の皆様はよくご存じだと思います。

3) POD

大日本印刷

1冊からでも読者の注文で本を作る画期的な印刷システムを楽譜出版版元に提供します。

大日本印刷グループのオンデマンド・サイト「ウェブの書齋」や電子書店サイト「honto.jp」

丸善ジュンク堂書店での販売も可能です。またユーザーの希望の曲目でのオリジナル楽譜なども制作可能で新しい小部数印刷の可能性を秘めています。

○問い合わせ 大日本印刷・出版メディア事業部 POD
推進室 03-6735-6253 古賀裕之、岩浅好徳

4) GVIDO e-ink 電子楽譜端末

電子書籍端末で普及しているe-inkを使用した本格的な電子楽譜専用端末が先ほど発表され、世界中から問い合わせが来ているそうです。見開きの電子楽譜端末は極めて本格的な商品といえます。具体的な商品化は来春になるそうですが大変魅力的です。

○問い合わせ テラダ・ミュージック・スコア
03-6821-2729 野口不二夫

■定期総会でのご提案事項について

今年の総会は役員改選がないこともあり懸案となっている課題について理事会はもちろん理事同士の夜の懇談も含めかなり長い時間を割いて議論を重ねてまいりました。

議論の結果を先の総会で「秋に臨時総会を開催し定款改定を含めてのご提案をする旨」お話しいたしましたのが改めてポイントについてご説明いたします。

活動をしていくためには、活動の基盤となる正会員社の数が重要です。現在は28社ですが、積極的な勧誘活動を通じて早い段階で35社程度にまで安定的に増やしていく必要があると考えています。理想をいえば40社程度になれば現在ご負担いただいている特別年会費についても軽減していけると思います。当協会は音楽や楽器という同じDNAを持つ出版社の集まりという特色が非常にはっきりとした団体であり、出版団体としては決して大きな規模ではありませんが、業界団体、販売先、関係団体から敬意をもって遇されてまいりました。ただこれからもさらに多様化する音楽・楽譜・音楽教育の新しいニーズに応える出版団体としてプレゼンスを高め、活動を活性化していくためにもやはり更なる会員増が必要だと思います。こちら理事会を中心に勧誘をしておりますが、会員社からお付き合いのある候補会社へのお声かけなど助力をいただけますようお願いいたします。

また、この3月に決定したJCOPYのJRRCからの再委託終了により、2019年期からはJCOPYから当協会への利用料分配がなくなることが事実上確定しております。分配金はこれまで楽譜のコピー問題と音楽著作権の啓蒙に役立てるという趣旨のもと「楽譜コピー問題協議会」への拠出金に充ててまいりました。理事会としてもこの活動は息長く継続していく必要があると考えており、2019年期までにはこの減収分も含めて協会財政の安定化を図らねばならないと考えております。

次いで賛助会員の 신설は財政の安定化が目的で

一般社団法人 日本楽譜出版協会
理事長 堀家康雄

もありますが、これまで実施してきた協会のセミナー他の事業活動を新たに利用者団体へと開放し、充実させていくことで事業収入増を目指すこと、また楽譜出版に関する理解を広め、意識の高い演奏者、指導者と連携していくことで、さらに協会活動を広めていく拡大再生産の歯車を回すことも主目的と考えております。

今後は特にデジタル・ネイティブと呼ばれる若い世代に対して効果的に情報を発信し、意見を聴くことがさらに重要になってきていることを痛感しています。そのためにもこれまで強化してきた作家・権利者団体、販売団体との連携に加えて、これからは楽譜の一番の利用者である演奏団体、教育団体などさまざまな楽譜の利用者の集団・団体を当協会の活動に巻き込んでいくことが、楽譜業界の活性化につながると感じております。

さて、増収策と両面で理事会では事業費・管理費の見直しに着手しております。事業費・管理費に共通してWebの活用により印刷等の制作コストを削減していくことのほか、会議費、事務用品費、事務局経費、交際費に至るまで細かく削減目標を立て削減に取り掛かってまいります。当期は30周年記念行事等の特別な出費が発生いたしますが、来期の事業計画策定時には収支のバランスが見渡せるような取り組みをご提案したいと考えております。

また、事務局長を理事として委任する件に関しては上記の通り日常的な協会活動を活性化するにあたって、関係団体との交渉・連絡、理事会・各委員会活動の補佐には常勤の理事が責任をもってあたるべきという点からご理解いただければ幸いです。

協会活動の活性化はもちろん、会員社の増加、賛助会員の創設と勧誘、経費の削減と同時進行で懸案に取り組んでまいりたいと考えます。なにとぞ会員社のみなさまの積極的なご協力のほどよろしくお願いいたします。

■事務局レポート～「JASRACとの第2回意見交換会」について

一般社団法人 日本楽譜出版協会
島 茂雄

昨年9月に意見交換会を開催し、ぜひ継続開催の要望がJASRACさんや協会内からもあり、今回2回目の開催となりました。前回はネット上での楽譜の新しい利用形態を巡って色々な議論がありました。今回も4月21日に、複製部からは、江見部長、服部課長、送信部からは、高橋課長、異係長、北川さんにご参加いただきました。会員社からは、16社24名が参加。今回も前回同様事前にご質問・ご意見を会員社にご提出いただいたものを、JASRACさんにお伝えした上で、事前のレジュメを用意。こちらからの質問にお答えいただく形で進行し、さらに詳しい質疑・応答で進みました。

まず、江見部長から、質問事項に上がった**1.「TPP協定の締結に伴う著作権法の整備状況について」**概説的な説明があり、政府が公表した資料によれば、主な変更点としては、**①著作権等の保護期間70年への延長**(現行は死後50年)、**②著作権等侵害罪の非親告罪化**、**③著作権等の侵害に関する法定損害賠償制度の創設**などであることをご説明いただきました。また、特に③については、「アメリカのような懲罰的な賠償制度は設けられておらず、実務に大きな影響はない。」との解説があり、この著作権法の改正案は、「秋の臨時国会に提出され、可決された場合には、TPP協定の発行に合わせて施行される見込み」であるとのことでした。

次に、**2.「歌詞・楽譜のインターネット上の利用について」**ですが、高橋課長より「NMRCさんと4年間協議が続いたサブスクリプションの問題の協議が合意し、2月に規定を改訂しました。今後は楽譜や歌詞についての可視的利用を含め使用料規定全般の見直しについても取りかかりたいと考えております。特にインターネット配信においては今の規定で漫然と構えていては時代に見合っていない。またインターネットの世界で5年後のことは全く分からない、5年先のことを心配して委縮してしまうより、ビジネスの世界で音楽を利用されている事業主さんがきちんとした土俵でビジネスを展開できるよう規定を整備していくことが、音楽文化の発展に寄与していくことになると考えております。事前にいただいたご意見の中でも楽譜出版協会の皆さんから「**出版とネットワークでの使用料規定がアンバランスである**というご指摘」をいただいたかと思えます。これからの規定の見直しにあたって、背中を押されたようで大変力強い思いがあります。**年度内に新しい規定を決めていけるように取り組んでいきたい。**という力強いご発言があり、一同、前向きに協議していける感触を持ちました。

次の質問では、異係長より「**広告モデルの楽譜や歌**

詞のストリーム形式の使用料規定について」の回答があり「JASRACとしても現状において、**「楽譜をタブレット端末等」で表示し続けることで実質DLと同じ効果を上げることができる点**についても問題意識をもってみているところです。また複製不可をストリーミングの定義としているが、技術的な面から画面キャプチャなどDLや印刷と同じ効果が得られることも問題視しており、可視的利用のくりにおいて、歌詞と楽譜を同じくくりでいいか検討が必要。とはいえ、現在定率評価で利用している事業者もいることから、利用料を上げる、下げる、ないしは従量制、Pay Per Viewとするか定率制とするか、さまざまな観点から検討をしているところです。今後デジタルと紙の出版物を組み合わせた商品が出てきたとき、出版社にとって使いづらい規定になってはいけないうし、大前提として音楽マーケットの活性化が必要です。JASRACとしては直接の窓口であるNMRCに対して規定全般の見直しが必要であると話をしております。」また、高橋課長から補足として、「**楽譜については、ストリーム形式であっても効果的にはダウンロードと何ら変わらない。“ネットで見えている”ことをもって複製と同等の評価をすることが合理的と考えている。**配信の規定については、JASRACはNMRCの中でもAMEIの電子出版部会で活発な議論がされており、そことよく協議し、年度内に合意を取り付けて規定の改定を行いたい、というのが私たちのスケジュール感です。」という回答をいただき、この問題が前向きに進行しそうである感触を出席者は、得たと思います。その他、「楽譜の広告宣伝に関すること」、「紙の楽譜出版とネット利用の複合利用の使用料規定の件」、「CDのコンテンツと同じものをネットでダウンロード可能な「オートリップ」の件」、「海外OPの包括出版契約による配信や出版の件」、「違法サイトへの取り組み」、「申請手続等の問題」等の質疑応答がなされました。

最後に、江見部長より「今後楽譜出版においても「オートリップ」のような取り組みがなされると予想していますが、今後紙とデジタルの融合された新しい楽譜サービスが増えていくことで結果的に著作物の利用が全体で増えていくものと考えます。今後の規定の協議においてもこのような文脈の中で新しいビジネスモデルについて同じベクトルで話し合われていくことは、JASRACとしても歓迎するところです。」というお話しをされました。わずかな時間の中で、双方活発な意見が述べられ、今後もこのような機会を開催し推し進めることで、両者が合意し閉会となりました。

委員会活動報告

販売対策委員会

販売対策委員長 木村一幸(シンコーミュージック・エンタテイメント)

今年度、販売対策委員会の主な活動は「楽譜・音楽書祭り」と「楽器フェア」になります。

今年で第4回目となる「楽譜・音楽書祭り2016～6月6日は楽器の日」は5月15日からスタートいたしました。今回より既刊本のエントリーを大幅に拡大した関係で、15日のスタート時より店頭で多くの帯付き商品を展開できました。それが良い効果となり、6月中旬現在で350通程の応募をいただいております。

著作権委員会

著作権委員長 菅原敏彦(東京書籍)

本年度の著作権委員会は、例年と同様に、夏の「著作権講座」、秋の「著作権研修会」を2本の柱にして活動を行っていく予定です。

夏の「著作権講座」は今年で第24回となりますが、『TPP時代に問う音楽著作権の行方～二次創作、人工知能等をめぐって～』というテーマで、7月15日(金)に日本出版クラブ会館で開催しました。昨年から弁護士の福井健策先生をメイン講師をお願いして、また、

制作委員会

制作委員長 川元啓司(カワイ出版)

制作委員会は、主として各出版社の編集者によって構成される委員会です。厳しい出版事情の中にあって、出版社の根本を支えるのは編集者の企画力であるとの自負のもと、本年度は10月27日に、より知識を深め、

広報委員会

広報委員長 堀家康雄(リットーミュージック)

先の総会でもご報告いたしましたが3月末に協会ホームページのリニューアルを完了、公開いたしました。デザインを一新、わかりやすい導線で協会の主張・活動や沿革を紹介しております。新たに会員専用ページを設けて、理事会・各委員会の予定や活動を会員社

これは昨年の2倍以上のペースですので非常にいいスタートになりました。

また、11月4日～6日の3日間で行われます「2016楽器フェア」では販売ブース「大楽譜市場2016」を出店する予定です。楽器フェアは前回より東京ビッグサイトに場所を移し3日間と以前より期間が短くなったにもかかわらず来場者数が増加しており、販売ブースの売上も上々でした。今回、販売ブースの面積は現時点(6月中旬)では未定ですが、前回ほどの売上を期待しております。

同じ法律事務所の小林利明弁護士にもご登壇いただき、著作権等の最新動向と今後の展望についてご講演いただきました。

秋の「著作権研修会」のテーマは未定ですが、11月11日(金)に開催することが決定しております。デジタル化やネットワーク化、グローバル化の急速な進展に加え、少子高齢化社会の影響もさまざまな分野で拡大しつつありますが、それらの変化に正対し、かつ、協会各社の発展につながる活動となるよう、著作権委員会全員で取り組んでいきたいと考えております。

また企画力の向上に資する研修会の開催を予定しており、その準備を行っています。

また従来通り、日進月歩の制作技術の変化に沿った情報の収集・研究および開示や、楽譜制作に関わる過程を可視化することによる、楽譜出版社の努力や熱意についての一般へのアピール、違法なコピーを防止するための啓蒙活動なども行ってまいります。

と共有できるサイトを目指しています。

今後セミナー・イベントなどの申し込みにもホームページを活用できるよう専用フォームを今期内に導入予定です。毎月情報を更新しておりますので掲載原稿は随時募集しています。

また「楽譜・音楽書祭り」関係の制作物各種の手配のほか、CARSと協議のうえ楽器フェアブース出展の申し込みをいたしました。

「新入会員からひとこと」

この度、日本楽譜出版協会に加盟させていただきましたライリスト社です。岩間楽器株式会社＝楽譜問屋時代には加盟されておられますほとんどの出版社の皆様には大変お世話になりました。さらに此度は皆様の一員として迎えられた事を大変嬉しく存じます。堀家理事長はじめ皆様には感謝しております。

さて、弊社は昭和15年に楽器、楽譜の卸問屋として名古屋で岩間楽器店として創業いたしました。戦前、戦後の厳しい時代を乗り越え、昭和27年に法人化、また昭和

48年には関連会社岩間貿易を立ち上げ国内、国外の楽器の卸し問屋としての基盤を築き上げました。昭和55年には大正琴普及団体琴修会を設立、平成元年ビデオ制作会社CAVNET設立、平成7年にはオカリナ普及団体ライリッシュ・オカリナ連盟設立といった出版にも関わる事業を展開しました。

楽器、楽譜卸し、音楽普及団体の設立、出版事業といった多角化を図りましたが、現在は音楽普及団体 琴修会、ライリッシュ・オカリナ連盟の運営に集中し、アク

岩間昌一(ライリスト社)

ティブシニアに向けた自社楽器の開発、楽譜出版、音源制作といった事業に特化しております。

当社は今年で創業77年を向かえることとなりますが、出版に携わる者としてはまだまだ駆け出しでございます。今後は皆様と共に色々勉強させていただき、楽譜出版協会の一員として業界の発展のために微力ながら協力させていただきますたく存じます。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく御願ひ申し上げます。

楽譜・音楽書祭り2016

2016年5月15日～8月31日

A賞 JTB旅行券 2万円分 3名様

B賞 選べるグルメ券 1万円分 3名様

C賞 全国共通お食事券 ジェフグルメカード 5,000円分 20名様

W チャンス賞

A～C賞に外れた応募者から抽選で合計580名様

①オリジナル・ピアノ柄手ぬぐい 280名様

②クオカード500円分 300名様

合計**606**名様に当たる!!

6月6日は**楽器の日**

応募方法: 郵便ハガキに応募券(コピー不可)を添付し、①ご購入の商品タイトル②出版社名③お名前④ご住所⑤性別⑥年齢⑦ご希望の賞品[A賞 B賞 C賞]のいずれか。Wチャンス①②は選べません⑧本キャンペーンへのご意見・ご感想を明記のうえ、右記までご郵送ください。ホームページwww.j-gakufu.comよりハガキの印刷データをダウンロード可能です。

あて先: 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-18-21 楽器会館4F (一社)日本楽譜出版協会「楽譜・音楽書祭り2016」係

応募締切: 2016年8月31日(水)(当日消印有効) 当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます(2016年10月予定)

参加出版社名(50音順): エー・ティー・エヌ、音楽之友社、学研プラス、カワイ出版、ケイ・エム・ビー、自由現代社、春秋社、シンコーミュージック・エンタテイメント、全音楽譜出版社、中央アート出版社、東音企画、ドレミ楽譜出版社、日研、ヤマハミュージックメディア、ライリスト社、リットーミュージック

詳しくは www.j-gakufu.com

関連団体活動報告



文化芸術推進フォーラム「五輪の年には文化省」 一般社団法人 日本楽譜出版協会 本橋慎弥

5月16日に開催された文化芸術推進フォーラムの運営委員会で、以下の三点の目標について確認がなされ平成28年度の活動計画案が提案されました。

2020年の東京オリンピックパラリンピックの開催決定を受けて「五輪の年には文化省」というスローガンのもとに①実演芸術、メディア芸術・映画、美術、生活文化に固有の政策を形成し人々の創造、鑑賞、参加の充実を②我が国の多様な文化芸術を外交、観光、国際交流に生かす政策の展開に強

力なイニシアチブを③文化芸術活動を支える政策・予算の充実、制度の改善を、以上の三点を目標として掲げその実現のために28年度は次のような活動展開を図ることになりました。

- ・「五輪の年には文化省」のキャンペーン葉書を送り賛同者の拡大を図る。
- ・「アーティストによる新作展」賛同する美術家100名による新作の展示販売会を開催。
- ・「五輪の年には文化省」宣言をアピールし五輪文化プログラムなど

の提案を行う。

- ・「文化芸術の力ー日本の未来をつくる」朗読劇、コンサート、ダンス、舞囃子などの公演。
- ・「五輪記録映画会」1964年東京、1972年札幌の記録映画上映とトーク。

以上の活動について加盟各団体へ協力の要請がなされ、日本楽譜出版協会も「五輪の年には文化省・提言」と「文化芸術No.6」の冊子を会員各社に配布し、総会時に今後の活動に対して協力要請をしました。

CARS (楽譜コピー問題協議会) レポート

2004年のCARS(楽譜コピー問題協議会)発足時以降、長年にわたり代表幹事をお務めになりました小森昭宏先生が、6月5日、腎不全のため享年85歳で急逝されました。数日後に設定されていたCARS総会・幹事会への参加も予定いただいていたと聞いておりましたので、あまりにも突然の訃報に驚きを隠せませんでした。

創作活動はもとより当会代表幹事の他、日本童謡協会常任理事なども歴任され、ご多忙でいらしたにも関わらず、常にリーダーとしての役割を担われ、様々な楽譜コピー問題に対しても、的確なご意見、対処の方向性等を示していただいております。

ご生前の当会に対する多大なご功績とご尽力に深く感謝し、謹ん

韓 貴峰 (音楽之友社)

でご冥福をお祈り申し上げます。

楽譜データコピーの取扱等、時代に即した啓発項目を追加したCARSリーフレット「楽譜のコピー Q&A」改訂版が完成し、3月末よりCARSホームページでの公開、及び関連団体等への配布を開始しております。

JCOPY 2016年度以降の事業活動

一般社団法人 日本楽譜出版協会 本橋慎弥

昨年度よりJCOPYで検討されてきたJRRCへの管理委託契約について2015年度第10回運営委員会(2016年3月18日)で最終案が決定し3月30日のJCOPY理事会・総会で、2017年3月31日をもってJRRCとの管理委託契約の解除(契約の終了)及び2018年3月31日までにJRRCを退会する決議がなされたことをJRRCに同日付で伝えた。これに

より分配金の支払いは2017年度分利用料(2018年度支払)をもって終了することが決定した。

これに伴いJCOPYの2016年度の事業活動は以下の事項を念頭に置き、改革を進めることになる。①組織変更として構成団体の再編成・再構築と理事・運営委員体制の見直し。これは諸外国のRRO(複製権管理団体)と双務協定締結を進めていくにはまずIFRRO

(世界複製権機構)へ加盟することが必要となり、これには著作権団体を代表する理事を置くことが条件となるため②JRRCとの連携を今後も継続するために役員相互派遣やポータルサイトの開設を促進すること③「委託契約の解除と退会」に係わる社への説明と再契約の確認。

11月4日・5日・6日
10:00~20:00 10:00~18:00 10:00~17:00
東京ビッグサイト 西1・2ホール

楽器と音楽、音をトコトコ楽しもう!!

musicfair.jp
楽器フェアに関する情報はホームページをご覧ください。

■主催：日本楽器フェア協会 ■入場料：前売入場券 ¥1,200 / 当日入場券 ¥1,500 (1日券) ■高校生以下、70歳以上入場無料
Musical Instruments Fair Japan 2016

事務局お知らせ

協会創立30周年記念パーティー

日本楽譜出版協会は1986年10月に会員社11社により発足して今年は創立から30年を迎えることとなります。これまで協会の活動をご支援頂いてきた方々や協会の役員OBをお招きして記念パーティーを開催することになりました。

詳細は未定ですが日時会場が決定しておりますのでお知らせいたします。

日時 平成28年10月21日(金曜日) 18:00~

会場 東京ガーデンパレス (〒113-0034 文京区湯島1-7-5)

●おたまじゃくしの目●

私はベースという楽器が好きです。いつもバンドの後ろの方でボンボンと低い音をだしているあの楽器です。そしてどちらかと言えばアコースティック・ベースが好きです。ウッドベースともコントラバスとも弦バスとも呼ばれているやつです。ジャズでもクラシックでも使われています。ジャズでは主にピチカートでクラシックでは主に弓を使って演奏されます。ベース耳というのでしょうか。どんな音楽を聞いていてもまず耳はベースを追いかけてしまいます。学生のころ好きだったベーシストはチャールズ・ミンガス、ポール・チェンバース、リチャード・デイビス、チャーリー・ヘイデン、ニールス・ペデルセン、ブライアン・ブロンバーグなどなど指の早く動く人からそうでないわば一音入魂の人まで色々。クラシックでは当時はまだゲリー・カーしか知らなかったかな。

そんなわけだからレコード会社でジャズの制作担当者となったときも迷わずベースの作品を作りまくった!...というのは言いすぎかな。実際は好きなジャズの担当になったはいけれど、海外

に人脉も何もなく、いったい何をすればいいのか途方に暮れてしまい、そこで半分ヤケクソになって「どうせディレクターとしてダメになるなら自分の心の底にある好きなことを徹底してやろう」と思い、リチャード・デイビスやブライアン・ブロンバーグ、フランスのフランソワ・ラバトや日本では藤原清登といったベーシストに直接連絡をとり作品化していきました。作品のテーマはズバリ「ベースが主役」。90年代の終わりのころはなしです。そしてこういった一流プレイヤー達が意外にもすんなりとこちらの意図をくみ、快く応じてくれたものですから「低音シリーズ」としてシリーズ化することができました。

やがて私も制作の現場を離れ、現在は音楽出版社で音楽著作権ビジネスに明け暮れる毎日ですが先日ひょんなことからピアノの佐山雅弘さんの作品をプロデュースする機会が得ました。ベースは迷わず藤原清登にお願いして、今の自分が考える理想のピアノとベースのデュオを作れたかなとちょっと満足しています。
森川 進 (株式会社 セブンシーズミュージック 常務取締役)

「一般社団法人日本楽譜出版協会」加盟社一覧 (五十音順)

(平成28年[2016]年6月2日現在)

会社名	代表者	住 所	ホームページ
アルソ出版(株)	上原 匡人	161-0033 新宿区下落合 3-16-10 大同ビル 3F	http://www.alsoj.net
(株) エー・ティー・エヌ	小林小百合	161-0033 新宿区下落合 3-12-21 目白エミネンス 102 号室	http://www.atn-inc.jp
(株) 音楽之友社	堀内久美雄	162-8716 新宿区神楽坂 6-30	http://www.ongakunotomo.co.jp
(株) 学研プラス (音楽事業室)	松村 広行	141-8412 品川区西五反田 2-11-8-18F	http://gakken.jp/ongaku/
カワイ出版	亀田 正人	161-0034 新宿区上落合 2-13-3 全音楽譜出版社内	http://editionkawai.jp
(株) 教育芸術社	市川かおり	171-0051 豊島区長崎 1-12-15	http://www.kyogei.co.jp/
教育出版(株)	小林 一光	101-0051 千代田区神田神保町 2-10	http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/
(株) 共同音楽出版社	豊田 治男	171-0051 豊島区長崎 3-19-1	http://www.kyodomusic.jp/
(有) ケイ・エム・ビー	片岡 博久	171-0043 豊島区要町 3-41-10 新東京観光ビル 2F	http://www.kmp.co.jp
(株) 現代ギター社	倉田 一秀	171-0044 豊島区千早 1-16-14	http://www.gendaiguitar.com
(株) サーベル社	鈴木 廣史	130-0025 墨田区千歳 2-9-13 ルックハイツ两国 1F	http://www.saber-inc.co.jp/
(株) ジャパン・ミュージックワークス	北村 聰夫	101-0031 千代田区東神田 1-10-4 新川ビル 902	http://www.at-elise.com/
(株) 自由現代社	竹村 欣治	171-0033 豊島区高田 3-10-10 トレ・サティス・スタジオ 5F	http://www.j-gendai.co.jp
(株) 春秋社	澤畑 吉和	101-0021 千代田区外神田 2-18-6	http://www.shunjusha.co.jp
(株) シン・ミュージック・エンタテインメント	草野 夏矢	101-8475 千代田区神田小川町 2-1	http://www.shinko-music.co.jp
(株) 鈴木音楽産業	鈴木 萬司	430-0852 浜松市中区領家 2-25-11	http://www.suzuki-music.co.jp
(株) 全音楽譜出版社	笠井 恒明	161-0034 新宿区上落合 2-13-3	http://www.zen-on.co.jp
(有) 中央アート出版社	吉開狭手臣	135-0006 江東区常盤 1-18-8 伊東倉庫(株)内	http://www.chuoart.co.jp
(株) 東音企画	福田 成康	170-0002 豊島区巢鴨 1-15-1	http://www.to-on.com
東京書籍(株)	千石 雅仁	114-8524 北区船場 2-17-1	http://www.tokyo-shoseki.co.jp
(株) ドレミ楽譜出版社	山下 浩	171-0033 豊島区高田 3-10-10 トレ・サティス・スタジオ 4F	http://www.doremi.co.jp
(株) 日研 (くおん出版)	吉川 秀雄	577-0065 東大阪市高井田中 3-8-5	http://nikken-p.com/kuon/
日本キリスト教団出版局	竹澤知代志	169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18-41	http://bp-uccj.jp/
(株) フェアリー	久保 貴靖	110-0004 台東区下谷 1-4-5 ルーナ・ファースト 4F	http://www.fairysite.com
(株) ライリスト社	岩間 昌一	466-0051 名古屋市長和区御器所 1-6-24	http://www.lyrist.co.jp
(一般財) ヤマハ音楽振興会	三木 渡	153-8666 目黒区下目黒 3-24-22	http://www.yamaha-mf.or.jp
(株) ヤマハミュージックメディア	須田 直治	171-0033 豊島区高田 3-19-10 昭栄高田馬場ビル	http://www.ymm.co.jp
(株) リットーミュージック	古森 優	101-0051 千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング	http://www.rittor-music.co.jp

当協会では随時入会を受け付けております。条件は1. 会社の業態として楽譜の出版及び販売を行っていることが明らかであること、2. 本会の目的に賛同し、入会金並びに会費を納める者、の2点です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

日本楽譜出版協会会報第 30 号 (2016 年 7 月発行)

発行人: 佐々木隆一 理事長: 堀家康雄 編集人: 堀家康雄

発行所: 一般社団法人 日本楽譜出版協会事務局

〒 101-0021 千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 4F

電話 & FAX 03-3257-8797 Eメール ofc@j-gakufu.com

ホームページ <http://www.j-gakufu.com>

この日本楽譜出版協会会報の定期購読をご希望の方は、送料のみのご負担で受け付けております。事務局までご連絡下さい。